

国語

平成25年度 一般入試(前期日程)

一次の各問いに答えなさい。解答は各問いの選択肢①～④から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。

問一 「この事件の背後には、友人間のソウコクが隠されている。」の「ソウコク」に当て
る最も適当な漢字はどれか。

- ① 相克
- ② 絵刻
- ③ 壮酷
- ④ 双哭

問二 彼はすぐに責任を他人にテンカする。」の「テンカ」に当てる最も適当な漢字はど
れか。

- ① 添加
- ② 転化
- ③ 転嫁
- ④ 転科

問三 あの名画は流転の生涯を送った。」の「流転」の読み方はどれか。

- ① るでん
- ② りゆうてん
- ③ りゆうでん
- ④ るてん

問四 「贈賄／収賄」と同じ関係になる最も適当な組み合わせはどれか。

- ① 事実／真実
- ② 正道／邪道
- ③ 急激／緩急
- ④ 理性／知性

問五 次の四字熟語の組み合わせのうちで、すべて漢字が正しいものはどれか。

- ① 闇中模索／意気投合／異口同音
- ② 以心伝心／右往左往／温故知新
- ③ 我田引水／画竜点睛／空前絶後
- ④ 言語道断／風光明媚／臨機応変

問六 倫理観が欠如している実態を（ ）と見せつけられる。「というとき、（ ）に最も適当な言葉はどれか。

- ① のうのう
- ② うかうか
- ③ さばさば
- ④ まごまご

問七 セマい土地に家屋がぎっしり建っている。「のカタカナを漢字に直したとき、同じ漢字を含むものはどれか。

- ① キョウチョウ性が無い
- ② キョウダイの仲がよい
- ③ ヘンキョウな考え方だ
- ④ キョウセイ執行する

問八 祖母の菩提を（ ）の（ ）に最も適当な言葉はどれか。

- ① 弔う
- ② 祝う
- ③ 払う
- ④ 養う

問九 目的を果たすため苦勞すること」という意味の四字熟語はどれか。

- ① 臥薪嘗胆
- ② 汗牛充棟
- ③ 輕率妄動
- ④ 乾坤一擲

問一〇 「旧態依然」の意味として最も適当なものはどれか。

- ① 昔の優美さを感じさせる様子
- ② 昔の関係が復活する様子
- ③ 昔の悪行が暴露される様子
- ④ 昔のままでは進歩がない様子

問一一 「万事休す」の意味として最も適当なものはどれか。

- ① 手のほどこししようがない
- ② 一旦休んで元氣を取り戻す
- ③ 必死の覚悟をかためる
- ④ 物事が理屈通りに進まない

問一二 次の文のうち正しい表現のものはどれか。

- ① サークスの動物たちが愛想を振りまく。
- ② 高い熱にうなされてうわごとを言う。
- ③ 新製品はすぐ完売するほどの好評を博した。
- ④ 気をつけていてもなかなか目が回らない。

問一三 先生から強く戒（い）ようなことをしてしまった。」というとき、送り仮名の正しいものはどれか。

- ① ましめられる
- ② しめられる
- ③ められる
- ④ られる

問一四 『人間失格』で知られる小説家といえば、（ ）。「」というとき、（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① 太宰治が有名である
- ② 太宰治にほかならない
- ③ 太宰治を知らない人はいない
- ④ 太宰治のファンは多い

問一五 二生（ ）趣味を見つけることが出来たら、幸せだと思う。「」というとき、（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① 続けられる
- ② 続けられる
- ③ 続けれる
- ④ 続けられる

問一六 お菓子の差し入れありがとうございます。ありがたく（ ）ます。「」いうとき、（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① 差し上げ
- ② いらっしゃい
- ③ 召し上がり
- ④ いただき

問一七 来社した取引先の部長に、「ご多忙の中（ ）まして、恐縮に存じます。」というとき（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① ご足労になり
- ② ご足労になられ
- ③ ご足労を煩わせ
- ④ ご足労を煩い

問一八 先輩、今度の日曜日に、私の娘のピアノの発表会があるのですが、（ ）（ ）ませんか。」というとき、（ ）（ ）に最も適当なものはどれか。

- ① 見に行つてやっていただけ
- ② 見に行つてあげてください
- ③ 見に行つてくださってもらえ
- ④ 見に行つてやってくれ

問一九 四字熟語 「（ ）霜烈日」 二日千（ ）（ ）に共通する季節はどれか。

- ① 春
- ② 夏
- ③ 秋
- ④ 冬

問二〇 情けは人のためならず」の意味として最も適当なものはどれか。

- ① 人に親切にすることは、その人を甘やかしてだめな人間にする。
- ② 人に親切にしておけば、めぐりめぐって自分によい報いがある。
- ③ 人に親切にすることは、厳しい現実の世界を知らせることになる。
- ④ 人に親切にしておけば、お互いが助け合う世界を目指すことにつながる。

問二一 塞翁が馬」の使い方として最も適当なものはどれか。

- ① 塞翁が馬の精神でどんな些細なことにも繊細であれ。
- ② 試験に落ちても気を落とすな。人生塞翁が馬だよ。
- ③ 世の中は何といつてもお金だよ。つまり塞翁が馬だよ。
- ④ 世の中はけつして失敗が許されない塞翁が馬の世界である。

問二二 大口に膾炙する」の使い方として最も適当なものはどれか。

- ① 彼の作品はテレビドラマ化され、広く人口に膾炙した。
- ② アジアでは人口に膾炙する問題が山積している。
- ③ 今度の事件で、大臣が人口に膾炙することになった。
- ④ 人口に膾炙する食糧危機を何とか解決したい。

問二三 「フリューション」の意味はどれか。

- ① 内容の区分
- ② 労働の対価
- ③ 計画の概要
- ④ 問題の解決

問二四 「フェイク」の意味はどれか。

- ① なまけ
- ② ささやか
- ③ あそび
- ④ ごまかし

問二五 「アイデンティティ」の使い方として正しいものはどれか。

- ① 彼は夢中になりすぎてアイデンティティと現実との区別が付かなくなった。
- ② 今回はアイデンティティのやりすぎで大きな市場を取り損なってしまった。
- ③ 彼一流の言い逃れのアイデンティティに多くの人がすっかりだまされた。
- ④ 他人の言いなりでは、社会人としてのアイデンティティが崩れてしまう。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答は各問いの選択肢①～④から選び、記号を解答用紙に記入しなさい。

曇りない明澄な精神の持主として、通常考えられがちな古代ギリシヤ人に、反面、Aきわめて深い憂鬱のあったことを指摘したのは、誰も知るギリシヤ学者ブツチャーであった。その著『ギリシヤ精神の諸相』の二章「ギリシヤ人の憂鬱」である。そこには、*早逝の運命への悲しみ、歓楽のはかなさ、青春の花を奪いさる死への呪詛という憂鬱もあつたにはあつたが、また他面、むしろ逆にこの世の不幸を歎じて、死の願わしさをあこがれる 太陽の下なるかぎり、どんな人間も幸福ではない」という言葉になり、さらにもっと有名な 人間にとっては、生れないこと、烈しい日の光を見ないことが、何物にもましてよいことである。しかも、もし生れたとすれば、できるだけ早くB冥府の門を過ぎ、厚い大地の衣の下に横たわるに越したことはない」テナグニスという詩句にさえなるのである。

したがって、死の問題が新しい別の意味をもって登場してくるのは、もはやこれまで述べてきたような強い C への信仰が力をうしなはいはじめた、多少大ざっぱにいつて、近代以来の主として問題なのではあるまいか。たとえば、D ショペンハウエルつくる 小対話篇 に見るような、

トラシユマコス——わたしの死んだ後、わたしはどうなるのでしょうか。はっきり、おっしゃってください。

フィラレテス——それは一切であり、そして虚無です。

といったような問いが問われだしてくるとき、E 死の問題は、また別の新しい衣裳をまとって登場してくる。われら、いずこより来り、いずこへ去るやを知らず、というだけの、たとえばオマール・カイヤーム流のただ甘美な懷疑だけではすまされない時期が到来するのではなからうか。それがF 近代人にとっての死の問題である。

ついでさきごろ 昭和三十九年)、わたしたちは畏友岸本英夫君をうしなった。岸本君が宗教学者として東大教授であったことは、知る人も多からうが、ここでこの友人のことを言いたいのは、彼がこの十年来、悪性皮膚癌の宣告を受け、幾十度か手術を経ながらも、いわば毎日四六時中、死と直面するといったような状態で生きていたことについてである。

その岸本君が、死を数カ月の前にして、わが生死観 という文章を書いている。わたしたちにとっては、この十年間の彼が、発病前の彼よりも一見はるかに明朗に、またはるかに旺盛な公人としての活動を示し、いわばあたかもG 死と戯れてでもいるかのように見えたことに、心から驚歎の念を禁じえなかったのであるが、それにもかかわらずこの文章によると、彼は、おそらく H 死刑囚の刑が最終的に決定するとか、神風特攻に出かけてゆく日がきまる」とかいったような運命の前に立たされた人間がそうであったろうような、おそるべき 生命飢餓状態 にあった、と告白しているのである。

生命飢餓感とは、食物に対する生理的な飢餓感に酷似している。胃袋に食物が満ちている時には、飢餓感を感じない。もちろん、人間は、満腹していても、食欲について語ることはできない。しかし、その場合の食欲は、食物の味のよいわるいというようなことに関係してくるに過ぎない。痛烈な飢餓感ではない。ところが、胃袋に食物のない状態の人は、もっとほんとうに腹の減った苦しみに、なやまされている。それは、単に、観念的においしい食物のことを考えただけでは、けっして、いやされることのないものである。生命の飢餓感も、それと、まさに同じである。」そして彼も癌の宣告を受けたとき、自分が、そのような生命飢餓状態にはいつていることを知って驚いた。そして、それから、十年近くも癌の再発と闘いつづけている間というものの、その生命飢餓状態のすさまじさを身をもって思い知ったのである」という。

そして、この生命飢餓状態にあって、当然彼が直面しなければならなかったのは、おそるべき死の脅威に対する抵抗であった。平生は漠然と死の恐怖と考えていたことが、実は、I 二つの異なった要素を含んでいることがあきらかになる。その一つは、死そのものではなく、死にいたる人間の肉体の苦痛であり、他は、生命が断ちきられるということ、すなわち、死その

ものに対するおそれである。中略) 生きている現在においては、自分というものの意識がある。《この自分》というものである。そこで問題は、《この自分》は、死後どうなるかという点に集中してくる。これが人間にとっての大問題となる。中略) 死の問題をつきつめて考えていって、それが、《この、今、意識している自分》が消滅することを意味するのだと気がついた時に、人間は、愕然とする。これは恐ろしい。何よりも恐ろしいことである。身の毛がよだつほどおそろしい。死後の生命の存続ということが、煎じつめると、その一点にかかっている。何とかして、《この自分》はいつまでもその個体意識をもちつづけるということを確認されればとねがう。これが「近代的来世観」である。」

岸本君は、敬虔なキリスト教の家庭に生れ、育ち、彼自身も青年時代のある時期までは、熱心な信仰者であつたらしい。だが、彼もまたそのころ棄教者になり、宗教学者ではあつても、K最期まで回心の機会はなかつたようである。死後の理想世界としての天国や浄土の存在は、まったく信じないようになつた。中略) 肉体の死によつて、私という意識する個体は、物質的にも、精神的にも、解消するものと考えようになつてきている。そう考えているというよりは、むしろ、私の近代的な知性が、私をして、そう考えさせずにはおかないという方が、より正確であらう。」

もちろん、この文章が書かれたのは、死の寸前というようなときではない。I果して死の瞬間において、彼がどう感じ、どう考えたかは保証のかぎりでない。だが、この文章は、彼の告別式場でも、特に抜き刷にして会葬者たちにくばられていたところをみると、最後までほぼこの心境で生を終つたと考えて、大きな誤りはないであらう。

そこで問題は、このおそるべき生命飢餓状態の中におかれて、死後の生存をすら信じえない彼が、いかにして死の脅威に抵抗し、これに打ち克ち、えたかという問題である。そして、それは、結局、彼が死を一つの実体として見ることをやめて、単なる虚像にすぎないと観じたとき、瞬時にして絶対的な生の肯定という形で到達されたかに見える。彼はいう。

私は、一つのこと気がつきはじめた。それは死というものは、実体ではないということである。M死を**実体**と考えるのは人間の錯覚である。死というものは、そのものが実体ではなくて、実体である生命がない場所であるということである。中略) 生と死とは、ちょうど、光と闇との関係にある。物理的な自然現象としての暗闇というのは、それ自体が存在するのではない。光がないというだけのことである。中略) 人間にとって光にもひとしいものは、生命である。その生命のないところを、人間は暗闇として感じるのである。死の暗闇が実体でないということは、理解は、何でもないようであるが、実は私には大発見であつた。中略) 人間に実際与えられているものは、**N**だけだということである。中略) 人間にとって生命は実体である。しかし、人間にとつてあることは、今生きているということだけである。」

そして、そこから逆に彼は、与えられた生命を最後までよく生きてゆくよりほか、人間にとって生きるべき生き方はない」という「生命の絶対的な肯定論者」になつたという。死を前にして大いに生きるといふことが、私の新しい出発になつた」というのである。

死を前にして大いに生きる」という——わたし自身も、発病以来の彼を知人として知っていただけに、この言葉以上に、晩年十年間における彼の緊張した生き方を表現する言葉はないと思うが、それならば、彼は最後の死の瞬間を究極的にどのように考えていたか。ふたたび彼はいう。私は、生命をよく生きるといふ立場から、死は、生命に対する《兪れの時》と考えるようになった。立派に最後の別れができるように、平生から、心の準備を怠らないように努めるのである」と。

おそらく、彼は立派に最後の別れをしたであろうことを深く期待する。そして静かに生の光が消えて、いっさいが虚無に帰したのであると思う。

○

中野好夫 大間の死にかた まえがき」より)

注 *早逝…若くして死ぬこと。若死。ふつう 早世」と書く。

問一 傍線部 A きわめて深い憂鬱」とあるが、なぜ 深い」と考えられるのか。最も適切な説明を選べ。

- ① 生を厭い死を願うほどの憂鬱であるから
- ② 人生を呪詛するほどの憂鬱であったから
- ③ この世に生きる事に伴う困難が非常に多いから
- ④ ギリシヤ人の運命観には長い歴史があるから

問二 傍線部 B 冥府の門を過ぎ、厚い大地の衣の下に横たわる」とは、どういうことか。最も適切な説明を選べ。

- ① 広大な王宮に迎えられ昼は国を挙げての饗応を受け夜は豪華な夜具に眠る事の比喩表現
- ② 昼なお暗い森にさまよい入り、緑に覆われた大地に倒れふして夜を過ごす事の比喩表現
- ③ 正念に住して、片時も愛語を忘れず、出家遁世の志のいささかも揺らがぬ事の比喩表現
- ④ 死後肉体は土に埋められて横たわり、肉体を離れた霊魂は死の世界に入る事の比喩表現

問三 空欄 C に入る言葉はどれか。最も適切なものを選べ。

- ① 虚無思想
- ② 霊肉二元論
- ③ 永劫回帰思想
- ④ 霊魂不滅説

問四 傍線部 D ショペンハウエルつくる 小対話篇」に見られる考えと、先のギリシヤ人の考えとの間の決定的な違いは何か。最も適当なものを選べ。

- ① 小対話篇」はプラトンの対話篇を模して作られているので一見するとそれがギリシヤ人の思想であるように見えるが、古代ギリシヤ人の思想はもっと曇りなく明澄である点
- ② 人はむしろ生まれぬ方がよいというギリシヤ人の厭世観が多分に感傷的であるのに対して、虚無です」と言い切る 小対話篇」にはその感傷の片鱗も見られない点
- ③ 小対話篇」は「一切であり」として、死を生を終着であり結論であると見るが、ギリシヤ人は生をいといながらも、そのいとわしい生との連続で死を考えている点
- ④ ギリシヤ人がいとわしい生に対する願わしいものとして死の世界を想定したのに対し、小対話篇」は願わしいものとして想定された死の世界の存在を信じていない点

問五 傍線部 E 死の問題は、また別の新しい衣裳をまもって登場してくる」とはどういうことか。最も適当なものを選べ。

- ① 死ねば霊魂も消滅すると考える思想的立場から死の問題が追究され始めるということ
- ② 霊魂は死後も不滅であるとする考えの裏付けを追究する思想的苦闘が始まるということ
- ③ 霊魂が死後も存続するとする思想を否定・反駁する根拠を模索し始めるということ
- ④ 死ねば霊魂も消滅するとする迷妄がこれまで以上に思想界を蹂躪し始めるということ

問六 傍線部 F 近代人」の属性として適当と考えられるものはどれか。

- ① つねに雲に覆われた様な陰鬱な心理的傾向
- ② 生きる事に絶望し、死に急ぐ焦燥感
- ③ 霊魂の存在を信じることができない懐疑
- ④ オマル・カイヤームの甘美な陶醉を認めない知性

問七 傍線部 G 死と戯れてでもいるかのように見えたこと」を筆者はどのように受け止めているか。最も適当なものを選べ。

- ① 死という人生の一大事を軽く扱いきている事に不快な思いを抱いている。
- ② 死という人生の終着点を余裕を持って受け容れる姿に羨望を感じている。
- ③ 死という重大事を悲壮感なく受け止めて対処している事に驚いている。
- ④ 死という悲しむべき事実を必死の思いで耐え忍んでいる姿に同情している。

問八 傍線部H 死刑囚の刑が最終的に決定するとか、神風特攻に出かけてゆく日がきまる」はどのような状態を明示する例として挙げられているのか。最も適当なものを選べ。

- ① 生を支配する運命を強烈に感じる状態
- ② 人間感情が極度の高まりを示す状態
- ③ 極限状態に追い詰められた人間の状態
- ④ 命ある日が明確に限られた生の状態

問九 傍線部I 「二つの異なった要素」とは何と何か。最も適当なものを選べ。

- ① 魂の肉体離脱とそれが肉体に与える苦痛
- ② 生の終焉とそれに至るまでの身体的苦痛
- ③ これまでの生の記憶とそれを失う喪失感
- ④ 生命を感じる飢餓状態と肉体的な飢餓状態

問一〇 傍線部J 「近代的来世観」とはどのようなものか。最も適当な説明を選べ。

- ① 死後肉体も意識もともに消滅するという来世観
- ② 死後霊魂は再来し私たちは転生するという来世観
- ③ 死後霊魂は死後の世界へ昇天するという来世観
- ④ 死後個我は大我に吸収されて消滅するとする来世観

問一一 傍線部K 「最期まで回心の機会はなかった」とはどういうことか。最も適当な説明を選べ。

- ① 学者として新しい思想の研究に精力的に取り組むことがなかったという事
- ② 疎遠、または不仲であった人々との交友を復活させることがなかったという事
- ③ それまでの無信仰を悔いて信仰の世界に戻る事が死ぬまでなかったという事
- ④ それまでの生き方を一新するような一大転機を経験しなかったという事

問一二 傍線部L 果たして死の瞬間において、彼がどう感じ、どう考えたかは保証のかぎりではない」と断定をためらうのはどうしてだと考えられるか。最も適当な説明を選べ。

① 本文中には明示されていないが、死の寸前の岸本氏の言動に死後の靈魂の存在を信じようとする片言を中野好夫氏は耳にしていると暗に示すような書き方であるから。

② 時間の経過と共に思想は変化するものであり、それと共に生命飢餓状態の絶頂にある死を目前にする人の思考はそうでない時の思考とは異なるとも考えられるから。

③ 幼児期の経験の大きさは言うにおよばず、人の臨終にはそれまでの生き方が反映されると言うが、キリスト教の家庭に生れた岸本氏がその教えに回帰する事は自然だから。

④ 宗教学者である岸本氏の死についての想念は、世界の種々の思想や宗教の死についての思想をろ過・蒸留したような清浄無雑なものであると考えられるから。

問一三 傍線部M 死を実体と考える」とはここではどういう意味と考えられるか。最も適当なものを選べ。

① これまで語り伝えられてきた地獄・極楽のような世界が死後にあると考える事

② 肉体の死を迎えた後も私たちの「生命」が引き続き存在し続けると考える事

③ 現に私たちが生きている世界のような世界が死後にも存在すると考える事

④ 生の完成として死と死後の世界を喜んで受け入れるべきであるという事

問一四 空欄Nに入る言葉はどれか。最も適当なものを選べ。

① 永遠の暗闇

② 死の恐怖

③ 現実の生命

④ 命の大切さ

問一五 空欄Oにはどのような文が入るか。最も適当なものを選べ。

① 残念とも無念ともいいようがない。

② あきらめる他ないのではなからうか。

③ それこそ至上の姿というべきであろう。

④ それでよいのではなからうか。

三 前問の問題文に紹介された岸本英夫氏はどのような考えを経て最終的に氏の救いとなった思想（死は実体ではない）にたどり着いたのでしょうか。そして何故その思想が救いとなったのでしょうか。自分の言葉で分りやすく説明しなさい。次に、その思想についてのあなたの見方を例えを用いながら、分りやすく述べなさい。文字数は全部で八〇〇字程度です。原稿用紙に記入のこと。